

学校教育目標	夢と希望と輝きをもつ 児童の育成	〔ミッション〕 ふるさと原を誇りに思い、生き生きと輝いて21世紀の社会に貢献できるよう、自分で考え自分で行動する子どもを育てる。
		〔ビジョン〕 ・自由で主体的な学校 ・風通しのよい職場 ・地域を大事にする学校
経営目標に向かう ストーリー	☆七尾中学校区、本校の研究テーマに共通している「自分の考えを持ち、説明する力の育成」に基づき、表現力の向上を目指した授業づくりを行う。 ☆行事等を通して地域の方々に親しみ、日頃のあいさつや会話等を通して感謝の気持ちを持つことにより、地域貢献への意識を涵養する。	

評価計画				昨 年 度 末	目 標 値	第 2 回 中 間	第 3 回 最 終	達 成 度	評 価
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための 方策	評価指標						
①【学習指導】 主体的、意欲的に学 ぶ児童を育成し、確 かな学力を身につけ る	◎学校全体で授 業交流の活性化 を図り、教師の 授業力を向上さ せる	・視点を明確にした研究授業に各担任が年一回以上取り組む。 ・ロイロノート、グループワークスペース等の活用例について暮会等で交流する。 ・1学期と2学期に1単元以上の「個別最適な学び」を視点とした授業に取り組む。	・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の育成【市共通項目】市目標値 85% 《児童アンケート》 困ったことや難しいことの解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる。 ※全国学力・学習状況調査児童質問紙の肯定的評価からの数値と本校児童評価アンケートから ・自分は理由を付けて相手に分かりやすく話している。 児童評価 ・標準学力調査ステップ別人数比における達成率（ステップ3・4・5の割合）国語・算数	87.5% (全国平均) 87% (本校アンケート)	85% (全国平均) 85% (本校アンケート)	95% (全国平均) 83.3% (本校アンケート)			B
(修正)				83.6%	85%	83.3%			B
				国語 70% 算数 79%	国語 85% 算数 85%	国語 —% 算数 —%			—
②【生徒指導】 自分を大切に、友 達を大切に、共に 頑張ろうとする心と 根気強く取り組む力 を育成する	・望ましい生活習慣の定着を図る ◎児童の自己有用感を高める【校区共通項目】	・生活ふり返り週間の取組を継続し、日々の生活習慣について、目的意識をもたせ、個に応じた具体的な方法を指導する。 ・自他の良さを互いに認め合える活動の場づくりと評価の工夫を行う（「かがやきの木」の全校への紹介・縦割り班掃除等の取組）	・「相手の方を見て挨拶をする」児童評価（生活振り返りカード④） ・「わが子は、家庭・地域・学校などの場で挨拶をしている」保護者評価 ・自分は、自分のよさは、周りの人から認められていると思う。 児童評価 ・自分は、まわりの人の役に立とうとしている。 児童評価	93% 81% 79% —%	90% 80% 90% 90%	95.4% 77.3% 81.8% 93.8%			A B B A
(修正)									
③【開かれた学校】 地域・保護者との連 携を深め、信頼され る学校づくりを進め る 学校における働き方 改革を推進し働きや すい職場を目指す	◎学校運営協議 会内での連携を 核として、児童 と地域とのつな がりが深まる教 育活動を推進す る ・学校からの積極的な情報発信を行い、児童に関わる課題を保護者と共有し課題解決に努める ・学校全体で業務改善を推進し教職員が主体的に課題を解決する組織風土を醸成する。	・地域と学校の協働により、児童の資質・能力・態度を育成する ・児童の学習面や生徒指導上の課題に対して、迅速に対応する ・業務改善を行い児童と関わる時間や教材研究の時間を確保する	・「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」教師評価 ・「自分は地域（原）が好きであり地域に役立ちたいと思っている」児童評価 ・「学校は我が子の相談に丁寧に応じてくれる」保護者評価 ・「児童の課題に対し迅速に対応し、教職員間で連携して取り組んだ」教師評価 ・「仕事に意義とやりがいを感じ主体的に児童と関わったり教材研究に取り組んだりした」教師評価	100% (教師) 93% (児童) 100% 100% 100%	100% (教師) 90% (児童) 100% 100% 100%	77% (教師) 87.9% (児童) 100% 100% 100%			B B A A A
(修正)									

・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」（児童評価）（目標値８５％）昨年度末の８７％から８３．３％と児童の自己評価はまだ目標値に達していない。また、「自分は理由を付けて相手に分かりやすく話している」（児童評価）（目標値８５％）昨年度末の８３．６％から８３．３％とこちらも達成していない。両方とも下回っているが、今年度は研究の柱として「分かる楽しさ」を取り入れ、誰でも学びに参加でき、自分で課題を選択し、決定し、取り組むことのできる授業づくりを全体で行っている。また、チーム担任制を取り入れ、多くの先生との関わりを通し、新たな視点から児童のよさを認めたり、伝え合う場や説明する場なども取り入れたりしている。授業づくりにおいても、自由進度的な学習や自分で課題を選択し、決定した上で取り組む場などを設けている。２項目とも教師評価では１００％に達しているのは、その取組を行っているからである。教師と児童の認識の差を埋めるために、以下の事を後期は重点的に行っていく。

○具体的な指針の共有。

評価の低かった児童においては、アンケート項目の理解として、「理由をつけて」や「分かりやすく」というところの認識ができていないことが考えられる。目標達成への自己評価が低いのも同様であり、できていても肯定的な評価につながらないのは、何ができたらいいいのかなどの具体的な姿が児童に伝わっていないからである。指針を共有しつつ、教師がその場面を見つけた際、認める声掛けが必要である。例えば、「分かりやすく」とは順番、図示、指差しをしながら説明することであること、また、説明したいと思える環境づくりとして聞き手の反応など話型を示し、掲示し、いつでも使えるようにしていく。

○説明場面の設定。

授業だけではなく、委員会活動を兼ねて、放送委員会のインタビューを全児童で行い、その場でのやり取りから説明できる児童や質問できる児童を育成する。

・「相手の方を見て挨拶をする」（児童評価）（目標値９０％）昨年度末の９３％から９５．４％と児童の自己評価は上昇しているが、「わが子は、家庭・地域・学校などの場で挨拶をしている」保護者評価は８１％から７７．３％と下降している。児童の自己評価と保護者の評価には大きなギャップがある。児童は、学校内においては挨拶シールの取組もあり、「自分は挨拶をがんばっている」と思っているが、それが学校外の場に広がっていないと捉えられる。そこで、まずは「家庭内での挨拶をしていこう」と呼びかけたい。①おはよう②行ってきます③ただいま④おやすみなさいの４つの挨拶をしようという取組を進めたい。

・「自分のよさは、周りの人から認められていると思う。」（児童評価）目標値９０％に対して、８１．８％であった。本校では、自分以外の人の良さを見つけたり、自分では気づかない自分の良さを認めてもらったりできる機会を作るための「かがやきの木」の取組をしている。この取組は、自分の良さを認められていると感じられることにつながるものである。そこで、金曜日の朝の「かがやきの木タイム」で、すべての児童がカードをもらえるようにする工夫を進める。例：週の初めに書く相手を決めておき、金曜日を書くなど。また、「先生からほめられる」という回数を増やしていくことも大切であると考え。叱るときはしっかりと叱るが、たくさんほめることを私たち教職員が意識していく。

・「自分は周りの人の役に立とうとしている」（児童評価）９３．８％と目標値の９０％を上回っている。引き続き、委員会活動、係活動のさらなる充実を図り、「みんなのために責任をもってがんばろう」という意欲を持たせていきたい。

・８月の熟議では、教職員と学校運営協議会・地域学校共同本部の皆様と地域のよさを生かした学習活動について深く話し合うことができ、今後の学習活動に大いに役立つ意見や知識を得ることができた。地域・保護者と連携した学習として、米作りやサツマイモ栽培、鼓笛隊活動等の伝統的な学習活動とともに、「ハラっぱマルシェ出店」等の地域行事参加、高齢者施設との交流、植栽活動なども昨年より継続し、活動内容も充実化している。しかし、「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」の教職員アンケート結果（７７％）から、教職員は地域との連携をさらに進めていく必要性を感じていることが分かった。また、地域への貢献的な活動に対し、「自分は地域（原）が好きであり地域に役立ちたいと思っている」という児童アンケート結果（８７．９％）から、原地区外から登校している児童への働きかけに課題があることが分かった。これからも地域の方々との連携を深め、地域のよさを生かした特色ある学習活動と地域貢献の取組にやりがいや達成感を感じられる取組の創造に励んでいきたい。

・学校教育目標に向かって教職員のやりたいことを支援し、働き方改革を進めている。教職員の「やりがい」を高める取組は、アンケート結果（１００％）。教職員個々の強みを生かし、チャレンジを支えること、課題に対してチームとして積極的に力になろうとすることのできる心理的安全性の高い教職員同士の関係ができています。

・教職員の超過勤務は、４月～８月の月４５時間超過は１６名。新学級スタート直後の５月実施の運動会の影響が大きかったと思われる。行事に関わる業務の精選、行事を見越した業務の効率化について改善を図っている。「紙面力エル会議」として、全教職員からアイデアを募集して業務の効率化を図り、すでに１０項目実現させている。今後さらに取組を続け、教職員全員が達成感を味わえるようにしていきたい。



第2回(中間) 10月15日 学校運営協議会

- ・基礎学力向上をしっかりとお願いしたい。中学校では帯タイムで学力保障の取組をしている。小学校でも学力の二極化を起こさないように取り組んでほしい。
- ・学校の雰囲気や和やかでよい。授業も和やかな中で集中すべきところはきちんとできている。高学年になればより一層できているように感じた。
- ・特に高学年は成長を感じた。新学期になり、あいさつ運動があるからと言って早くから登校し、正門に立っている高学年を見て、先生方、地域の方々のおかげで子ども達が成長していると感じている。
- ・あいさつについては、子ども達はしっかりやっと思えている。最近、目を見てしっかりあいさつができていると感じる。自分からあいさつをし、こちらがしたらきちんとあいさつが返ってくる。ずいぶんよくなっている。
- ・地域の人材とのつながりについての教職員のアンケート評価から思いを知ることができたのは嬉しかった。地域として、原小学校の先生方とより仲良くしていきたい。
- ・保護者の「学校が丁寧に対応してくれる」という信頼を得ているので、引き続き頑張してほしい。
- ・教職員はやりがいを感じて働いている。働きやすい職場になっていると思う。

結果と課題の分析・改善方法等

【修正】

- ・基礎学力の向上については、帯タイムを復活させ、①基礎的な計算力②漢字の学習③聞き取る力の育成を行う。3分間の中で、個々のつまづきを把握し、確実に身に付くように繰り返し練習する。教職員及び児童で目標を共有し、「達成カード」に記録しながら児童の意欲を継続できるようにしていきたい。

【修正】

- ・あいさつについては、運営委員会の「あいさつ運動」をしばらく継続し、少しずつ参加者が広がっていくような取組につなげていきたい。

【修正】

- ・地域行事への参加として、3・4年生は「ハラッパマルシェ」への出店と合唱発表を行う。また、低学年は、「まちたんけん」で地域に出向き、地域の方との交流、つながりも生まれる。「チーム担任制」を生かして地域との連携ができる教員が新しく着任した教員に地域の方々との橋渡しがスムーズにできるようにしていく。また、教職員が熟議で得た意見をもとに、伝統芸能についての学習活動など、新たな地域学習の創造にも教職員が計画・実施できるように時間を確保していく。



最終 結果と課題の分析・改善方法等

〈結果と課題の分析〉

学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策

- ・協議会報告を受けて、各部会で、新たな改善点があれば、下にご記入ください。